

解答

- 問一 ① 所属 ② 伝統 ③ 困難 ④ 墓参(リ) ⑤ 運転
問二 ① けびよう ② ただ(ちに) ③ こころざ(した)
④ そっせん ⑤ けだか(い)
問三 ① オ ② ウ ③ ア ④ イ ⑤ エ
問四 ① めしあがつ(て) ② おめにかかれ(て) ③ さしあげ(た)
④ ござい(ます) ⑤ ごらんになっ(て)

- 問一 ② エ
問二 ウ・カ
問三 ア
問四 共有
問五 イ
問六 ① ア
② A 排他的 B 共生
問七 エ
問一 ③ A ア B ウ
問二 A 思いやり B 引きこもり C 楽
問三 エ
問四 ア
問五 ウ
問六 イ
問七 A 迷惑 B 助かりました
問八 ア
問九 ウ
問十 息子を大切に思い、時には厳しく接する父親であり、思いやりと良識のある人柄。

解説

- 問六(2) ③ 【第一段落】の最後に「言葉くらい人をはじくものではありません・際立って排他的になるのも、言葉です」とあり、【第二段落】の最後に「おたがいを繋ぐべき大切な概念を共有することが、じつは言葉を異にするおたがいの共生を可能にしていく」と述べられています。

- 問十 ③ 田畑さん夫妻の様子は、「ふたりはそろって有志一同にあいさつをし」「少しでも(息子が)社会経験ができるように、いろいろな人たちと交流できるように、彼が望んだ生き方をできるようにと、心を砕いている」と描写され、特に父親は息子に時には厳しく接し、息子とのいさかいがあっても「なに〜こともなかったかのように明るくふるま」い、「夜更けまで皆につきあってくれた」とあります。息子思いの愛情深い父親で、社会的には良識ある善良な人柄であることがうかがわれます。